

## STEP 1 地域の基本的な情報を集めましょう

STEP 1～5では、対象施設が地域の景観と調和したものとなるよう、検討を進めていきます。

STEP 1では、地域の景観について既存情報を集め、景観調査により地域の特徴的な景観について収集を行います。

### 調査範囲

調査範囲は、ここでは、概ね小学校区、地区（昭和30年以前の旧市町村界）とします\*。

調査前に、景観要素（次頁POINT参照）の観点から既存情報や既往施策などを調べ、地域の特徴を大まかに把握し、調査対象の絞り込みを行い、調査ルートを設定します。

### 既存情報の収集

景観配慮の検討に関係する主な既存情報としては、以下が挙げられます。

- ・ 田園環境整備マスタープラン
- ・ 景観農業振興地域整備計画
- ・ 農村環境計画

景観要素の観点から既存情報を収集すると効果的に整理することができます（下表参照）。

景観要素	図面・計画図関係	行政施策・計画関係	その他
自然・地形	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地形図</li> <li>・ 土地利用図</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市町村総合計画</li> <li>・ 土地利用基本計画</li> <li>・ 田園環境整備マスタープラン</li> <li>・ 農村環境計画</li> <li>・ 景観農業振興地域整備計画</li> </ul>	
土地利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水系図、道路網図</li> <li>・ 植生分布図</li> <li>・ 生態系調査整理図</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市町村総合計画</li> <li>・ 土地利用基本計画</li> <li>・ 田園環境整備マスタープラン</li> <li>・ 農村環境計画</li> <li>・ 農業振興計画</li> <li>・ 景観農業振興地域整備計画</li> <li>・ 森林保全計画</li> <li>・ 自然公園計画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 古地図</li> </ul>
施設・植栽等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 植生分布図</li> <li>・ 生態系調査整理図</li> <li>・ 公共施設配置図</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市町村総合計画</li> <li>・ 景観農業振興地域整備計画</li> <li>・ 農業振興計画</li> <li>・ 美の田園復興事業</li> <li>・ 農地・水・環境保全向上対策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観光パンフレット</li> <li>・ 伝統文化資源調査</li> <li>・ 資源マップ</li> </ul>
アイデンティティ 歴史・文化			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観光パンフレット</li> <li>・ 伝統文化資源調査</li> <li>・ 資源マップ</li> <li>・ 郷土史</li> </ul>

## 調査ルートの設定

地図を準備し、基本的な調査ルートを設定します。その際、以下の点についてあらかじめ情報を収集し、ルートを決めます(調査ルート図参照)。

- ・ 特徴的な景観 (景観を構成する要素)
- ・ 基幹的な道路

## 景観調査で必ず行うこと

- 調査対象を撮影します。
- 調査ポイント、景観を眺望した場所を地図に記録します。
- 景観について気付いた点をメモなどに書き留めます。

## 景観調査の要点

- 「自然・地形」、「土地利用」については、図面関係や計画関係の既存資料を参考にして、人が多く集まる場所、道路からみえる山、河川や農地、地形の特徴が分かる場所とその状況を意識して調査を行います。
- 「施設・植栽等」については、住宅や農業用施設、屋敷林などについて、事前の情報収集を行いつつ、調査では気になったものを積極的に記録しましょう。
- 「歴史・文化、アイデンティティ」の情報収集には、観光パンフレットや資源マップなど対外的な広報資料を活用することができます。



## POINT : 景観要素

農村景観は、山や自然植生、気候などの自然・地形的な要素、農地や宅地などの土地利用的な要素、住宅や公園、街路樹などの施設・植栽的な要素により、成り立っています。

景観要素は、このような農村景観の成り立ちにおけるカテゴリー(範疇)を意味し、「自然・地形」、「土地利用」、「施設・植栽等」の3つに加え、すべての要素に関連した「歴史・文化、アイデンティティ」の4つに分類されます。

本書では、STEP 1をはじめ、STEP 2、6、8で景観要素の考え方をを用いています。



\* 景観調査の範囲を決める手法としては、地形条件などを勘案して、整備対象施設からの距離で調査範囲を設定する手法(距離圏からの調査範囲設定手法)が現在検討されているところです。

## STEP 2 地域の景観について整理しましょう

景観調査（STEP 1）で収集した情報をもとに、事業主体は、地域の特徴的な景観構成要素を地域景観特性表、地域景観特性図として整理します。

ここでとりまとめられた資料は、地域の景観づくりのテーマを検討する際（STEP 3）に用いるだけでなく、地域のこれからの景観づくりの基礎資料として広く活用されます。

### 地域景観特性表の作成

地域景観特性表では、景観要素の観点から「自然・地形」、「土地利用」、「施設・植栽」、「歴史・文化、地域のアイデンティティ（個性）」に分類して整理していきます。

景観要素	地域の特徴的な景観構成要素			
自然・地形	 地域の西側の海・海岸	 地域の大部分を占める干拓地		 地域の東側の山
土地利用	 石積みかん欄	 イ草農地	 パルプ工場など海岸沿いに形成される工場地帯	 潮遊地
施設・植栽等	 相模類栽培ハウス	 用水路と排水路の分離整備	 直線的な水路施設	 樋門
歴史・文化 アイデンティティ (個性)	 堤防遺跡	 城址石垣	 神社	 干拓により陸とつながったかつての島

### POINT：地域景観特性表・図

地域景観特性表は、景観要素ごとに、地域の景観的な特徴を効果的に把握するための資料となります。

地域景観特性図は、特徴的な景観を眺望することができる場所、土地利用の現況、特徴的な景観構成要素の所在を視覚的に整理することができます。

作成した表・図について地域住民に情報提供する場を設け、地域住民からの意見を参考にしながら地域景観特性表・図の質を上げることも重要になります。

さらに、このような場を設けることは、地域住民の景観への関心を高め、維持管理についての主体性を浸透させることにも役立ちます。



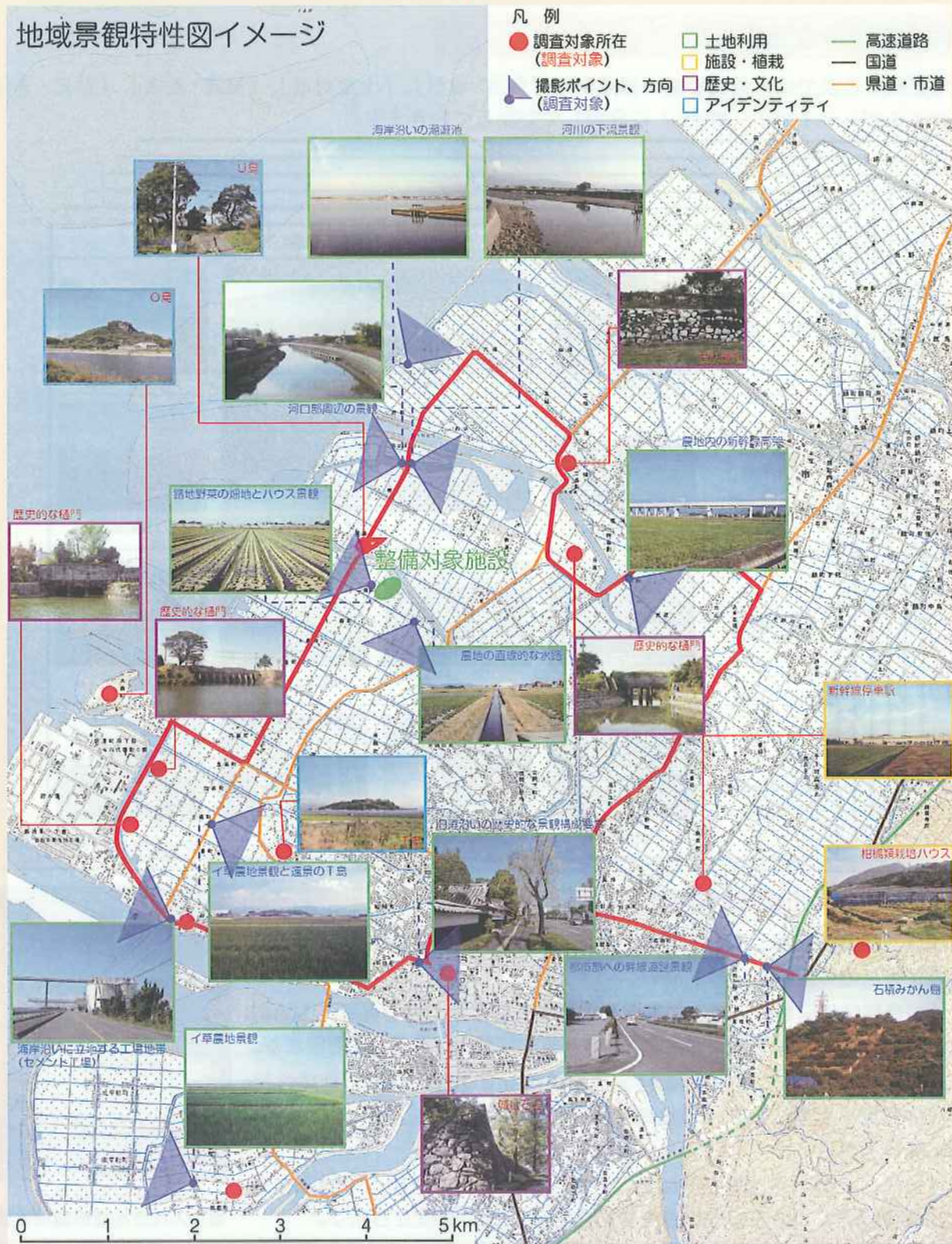
地域住民の意見を取り入れた地域景観特性図

## 地域景観特性図の作成

撮影ポイントを記録した地図（調査で用いたもの）と地域景観特性表をもとに、以下のことについて景観要素ごとに写真または調査ポイントをプロットします。

- 「自然・地形」、「土地利用」については撮影ポイントと撮影した方向、撮影した写真
- 「施設・植栽等」については、調査対象の所在と写真

### 地域景観特性図イメージ



## STEP 3 地域の景観づくりのテーマを考えましょう

STEP 2でとりまとめた地域景観特性をもとに、ワークショップなどにより地域住民の意見を踏まえた「地域全体の景観づくりのテーマ\*」を検討します。

ここで検討した結果は、基本構想のとりまとめ（STEP 5）に用います。

### 地域の景観づくりのテーマとは？

地域の景観づくりは、様々な施策や計画、事業により取り組まれています。このような取り組みが、それぞれ違った考え方で行われていると、統一感のない雑然とした景観となってしまいます。

そのため、地域が目指す将来の地域景観の姿とその実現に向けた取り組み方について検討し、地域の景観づくりのテーマとして設定します。

### テーマの検討の流れ

地域の景観づくりのテーマは、ワークショップなどで地域住民と一緒に検討すると、よりテーマの位置づけが明確になります。検討は以下のような手順で進めます。

- ① STEP 2でとりまとめた地域景観特性を示し、地域の特徴的な景観について地域住民の意見を促します。
- ② STEP 1で収集した「田園環境整備マスタープラン」や「農村環境計画」、「景観農業振興地域整備計画」などを参考にしながら、既存計画との整合を図ります。
- ③ 地域住民の意見を整理し、キーワードを抽出します。
- ④ キーワードを組み合わせてテーマを検討します。

### POINT：地域づくりのテーマの設定

地域住民に地域らしい農村景観を保全、形成するという考えが定着し、土地利用、公共施設、建築などの各分野で地域の景観に関する共通のテーマのもと、景観に配慮し活動することが重要となります。

地域の景観づくりのテーマを検討するための留意点を以下に挙げます。

#### ○ 分かりやすいテーマ

テーマは、地域が一体となった取り組みを推進するため、地域住民にとって身近で親しみやすく、わかりやすいことが重要です。

例えば、「樋門や堤防、潮遊池など地域のシンボルとなっている景観の保全、維持管理」や、「かつての多様な生態系を再生する」などの活動をテーマに取り入れることが考えられます。

#### ○ 地域のメリットを引き出す工夫

農村において、生態系や景観を保全することにより、地域のイメージをつくり上げ、そのイメージが農産物のブランド化やグリーンツーリズムなどの地域活性化につながる場合があります。景観づくりのテーマにおいても、地域活性化施策との関係を念頭においた検討が大切になります。

## 景観づくりのテーマの検討の流れ



### 地域住民の意見 (例)

- ・ 樋門、堤防、潮遊池など干拓時の施設が残っている。
- ・ 干拓造成に貢献した元郡長の墓前祭を毎年行っている。
- ・ 小学校などの学校教育の場で、地域の歴史を子供達に伝えている。
- ・ 漁業組合や住民組織が河川上流のゴミ掃除を行い、河川景観を維持している。
- ・ 干拓による海水と淡水とのバランスがとれた条件で、かつては多様な生態系が見られたが、現在は失われつつある。
- ・ 上流に下水処理施設、下水路が整備されたことにより用水がきれいになった。

### キーワードの抽出 (例)

[当該地域における歴史的景観 (かつての景観) の特徴]

- ・ 干拓、樋門、堤防などの大規模造成地
- ・ 自然と人為が合わさった豊かな二次的自然景観

[干拓地に住む住民の歴史的景観に対する思い]

- ・ 元郡長の墓に象徴される、干拓・農地開墾を成し遂げた先人たちへの敬意
- ・ かつての干拓地特有の多様な生態系の再生 (復活)

### 地域の景観づくりのテーマ (例)

“干拓特有の自然と人とのつながりを大切にし、  
干拓の足跡 (きせき) を将来へ伝える”

\* 「農業農村整備事業における景観配慮の手引き」では景観保全目標と呼んでいます。

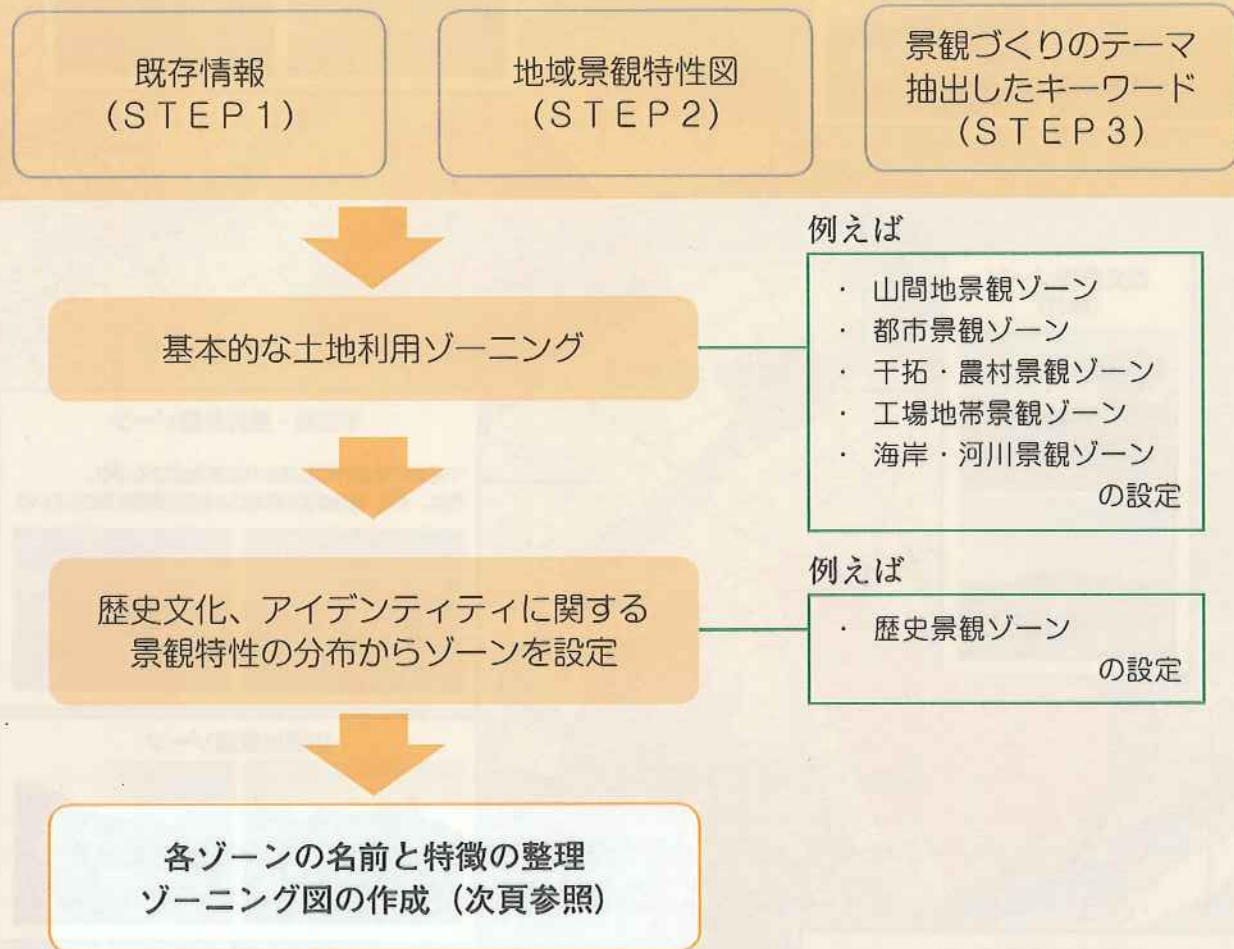
## STEP 4 特徴にあわせて地域をゾーニングしましょう

STEP 1～3の成果を用いて、地域の特徴的なゾーンを設定します。

このステップでの成果を活用して、各ゾーンの景観配慮の方向性を検討し、基本構想としてとりまとめます (STEP 5)。

### ゾーニングの流れ

地域景観特性図 (STEP 2)、地域住民の意見 (STEP 3) や既存情報 (STEP 1) などをもとに、地域の代表的な景観が集まっている場所など、その広がりや特徴をもとに、「基本的な土地利用」、「歴史文化、アイデンティティ」の順にゾーンを設定していきます。



### POINT：土地利用のゾーニング

基本的な土地利用のゾーニングでは、地域景観特性図 (STEP 2) における土地利用の現況を整理したものが重要な資料になります。

地域景観特性図にもとづき、ゾーンの設定や特徴の整理では、既往施策 (田園環境整備マスタープラン、農村環境計画、景観農業振興地域整備計画など) との整合を図り、今後の景観に関連した施策におけるゾーニングなどへの配慮が必要になります。



# ゾーニング図のイメージ

- 凡例
- 山間地
  - 都市
  - 干拓・農村
  - 歴史
  - 工業地帯
  - 海岸・河川
  - 歴史文化 (景観特性)
  - アイデンティティ (景観特性)
  - 高速道路
  - 国道
  - 県道・市道

### 海岸・河川景観ゾーン

干拓地特有の計画的な河川が造られ、潮遊池が点在する独特の景観を形成している

### 歴史景観ゾーン (農村)

河川沿いや農地に明治、昭和期に形成された農業用施設、歴史的価値を有する景観構成要素が点在している

### 歴史景観ゾーン (農村)

### 干拓地・農村景観ゾーン

干拓地に計画的に形成された農地がひろがり、稲作、イ草、露地野菜の栽培による農地景観を形成している

### 山間地景観ゾーン

### 工業地帯景観ゾーン

東側の海岸に工業地帯が形成している

### 都市景観ゾーン

歴史的な景観構成要素、文化施設が集積した都市景観を形成している

